

U B E 三菱セメント株式会社 2025 年度第 2 四半期決算説明会 質疑応答

日 時：2025 年 11 月 18 日(火)15 時 30 分～16 時 00 分

登壇者：U B E 三菱セメント株式会社 常務執行役員 CFO 加藤秀樹

【投資家・アナリスト向け説明会】

Q1 2025 年度第 2 四半期（2025 年 4～9 月）業績について

- ・ 国内セメント事業営業利益の滝グラフにおいて、年初での通期見通しの前年同期比では生コン等△16 億円としていたが、今回の第 2 四半期の前年同期比では△4 億円とマイナス幅が縮小している理由

A1

- ・ 年初では、生コン各社の値上げの状況が見通しきれず、さらにコストアップも織り込んでいたが、足元では値上げの実現により営業利益が改善しており、マイナス幅が縮小する傾向。

Q2 2025 年度連結業績見通しについて

- ・ 国内セメント事業の通期営業利益見通しが前年同期比で+72 億円増益の理由
- ・ 米国事業の通期営業利益見通しが前年同期比で△43 億円減益の理由
- ・ 米国事業の下期営業利益見通しが前年同期比で△13 億円減益の理由

A2

- ・ 値上げを中心とした販売価格差+110 億円、輸出販売価格下落による輸出価格差△30 億円、石炭を中心とする熱エネルギーコストダウン+50 億円、物流費等のコストアップ△40 億円、減販影響△20 億円等。
- ・ 昨年度は段階的な値上げ獲得であったことから、当年度はその効果が前期比でフルに反映され販売価格差で+20 億円となる一方、減販影響△35 億円、休転コスト期ズレ負担△10 億円、円高による為替換算影響△10 億円等により減益の見込み。
- ・ 販売価格差+10 億円、今期への休転コスト期ズレ影響も含む固定費アップ△20 億円等。

Q3 2025 年第 2 四半期（2025 年 7～9 月）業績について

- ・ 全社営業利益が第 1 四半期 109 億円から第 2 四半期 145 億円へ+36 億円増益の理由
- ・ 米国事業で第 1 四半期から第 2 四半期へ減益の理由

A3

- ・ 環境エネルギー事業での第 1 四半期減益からの反動+23 億円、国内セメント事業での値上げ影響+13 億円等。
- ・ 販売減△20 億円、第 1 四半期で負担した期ズレ休転コストの戻り+10 億円等。

Q4 国内セメントの値上げについて

- ・ 国内セメント事業における値上げの進捗度合いはどうか
- ・ 国内セメント価格の値上げ効果については、段階的な獲得とのことであるが、満額 2,000 円の獲得時期はいつ頃を想定しているか。

A4

- ・ 上期営業利益の前年同期比で販売価格差+33 億円になるが、年換算では進捗率 70%程度である。今後、第 3・第 4 四半期と値上げ効果を積み上げていく想定であり、年間では当初の計画通りとなる見通し。
- ・ 値上げは、取引先ごとの交渉となるため、全体としては段階的な獲得になるが、年度末までに概ね満額を獲得する想定。

Q5 MUCC 米国事業の市場動向、販売数量について

- ・ 米国事業では通期の数量見通しを引き下げられたが、米国での需要動向をどう見ているか

A5

- ・ 当初は、下期に金利が下がり需要が回復すると見込んでいたが、金利は下がりつつあるものの、その効果発揮はもう少し先と判断し、足元の状況も踏まえ、下期の販売見通しを前年並まで引き下げた。

Q6 米国事業の関税影響について

- ・ 米国事業の原材料費等への関税影響は変わらないか

A6

- ・ 関税影響は年初の想定から大きな変化はない。

Q7 米国事業における課題と対応について

- ・ 期初の中期経営戦略進捗報告における②米国事業の成長・新規拠点の探索において、骨材鉱山の拡張・取得や新規海外拠点探索を推進とあったが、どのような状況か。

A7

- ・ 骨材鉱山は計画的に取得を進めている。
- ・ 新規海外拠点の探索については、水面下の動きであり、お知らせできる段階には無い。

以 上